

卓 話

平成 23 年 10 月 18 日

『新入会員卓話』

岐阜中ロータリークラブ 八木好郎会員

生まれは 1950 年、昭和 25 年の寅年であります。来年には勤続 40 年、役員 10 年という大きな節目を迎えることになりました。こうした中、考え方を大きく変えた節目の時期があり、今の私の考え方に大きく影響していると考えております。

1 つ目には、20 代の時であります。名古屋市内で新しく支店を作った時に、即座にお取引を始めていただいたお客様に対する、感謝の気持ちであります。初めての訪問であったにもかかわらず、その場で取引を始めていただいたお取引先は、今でも忘れることができません。役員に就任した時に、就任記事のコピーを持ってお礼の挨拶に行きましたところ、泣いて喜んでいただいたことは、一生忘れることができません。

2 つ目は、岐阜市内の支店勤務の時であります。繊維関係がピークを越え、下降しかけた時であります。この頃から企業のオーナーと直接的に話すことが多くなり、仕事だけでなく、人間としての心を教わった時期であります。

3 つ目は、支店長になった時であります。陥落が非常に困難な超大手企業でありましたが、毎週訪問し、漸く 1 年目にして取引が始まったことであります。この先については、工場用地の紹介から始まりましたが、紹介した工業団地を購入したことで、対外的な信用もでき、年商も倍増し、今では国内トップメーカーとなり、国内だけでなく海外へも進出、世界のオンリーワン企業を目指す企業にまで成長されたことであります。20 年来のお付き合いをしていますが、ある時、「ここまで成長できたことは、工業団地に進出したことであり、そのお陰で朝日を見ることができた」と言われたことであります。なかなか取引ができず諦めようとしていましたが、根気・熱意を持って対応すれば、不可能なことはないと感じたことであります。

4 つめは、秘書役になったことであります。1 年間の内、約半分は東京に出張し、岐阜では味わえない中央関係の方と話ができて、中央の考え方等を知ったことであります。営業しか知らない私にとって、知らないことばかりでありましたが、会った方々にフォローをしていただいたお陰で、7 年間もの間、貴重な経験をしました。今でも困った時には、SOS、応援して欲しいという、即座に動いてくれる、こんな人材と付き合いができたことであります。いろいろ、経験したことばかりの話をしましたが、私が現在ありますのは、これまでお会いした多くの人たちから、数々の教えをいただいたお陰であります。今は、これまででお会いした人たちに、少しでも恩返しをするためにも、ロータリーの方針と同じく、地域の活性化、地域貢献に取り組んでいきたいと考えております。私自身、40 年間の経験から、「心」、「謙虚」、「変化」、「挑戦」、「感動」、「感謝」をキーワードとしています。そして、出会いを大切にしていくことであります。

先週の木曜日（13 日）から、日曜日（16 日）まで、初めて中国の上海、そして南通に出張してきました。新聞等で報じられておりますが、不動産バブルは終わりつつあり、また、高齢化の進展とともに、注意を要すると言われておりますが、中国の活力、国土を見る限り、問題を内包しているものの、まだまだ発展する国と痛切に感じました。こうした力を見ることにより、このままで良いのかと感じました。微力ではありますが、より一層、岐阜県内、愛知県内の活性化に貢献していく必要があると考えた次第であります。

会員の皆さんからもお知恵を借り、また、教えていただきながら、取り組んでいきたいと考えております。貴重なお時間をいただき、また、お話をする機会をいただき、誠に有り難うございました。

